

# 令和3年度 学校自己評価シート（中間評価）

# 上田市立川辺小学校

A：達成できた B：概ね達成できた C：やや達成できなかった D：達成できなかった

学校教育目標	重点目標(中期目標)	今年度の重点	中間評価
たくましく かしこい子どもの育成	深く考え取り組む子ども(知) ⇒ かんがえよう 思いやりのある子ども(徳) ⇒ つなげよう 健康でがんばりのきく子ども(体) ⇒ きたえよう	一人ひとりの子どものよさに目を向け、学びを深める授業づくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>子ども同士の助け合いを大事に考えてきた。学習への取り組みやすさ、あきらめない気持ちにつながると感じた。</li> <li>コロナ禍で活動の制限が多い中、何ができるのか、何が不要か、何を大切にするのか、目標達成に向けて意識して取り組むことができた。</li> <li>一人ひとりの良さや得意に目を向け、職員全体で児童をみることができている。さらに一人ひとりのよさに目を向けられるよう、授業、休み時間、委員会活動などの様々な場面で子どもたちと関わりたい。</li> <li>授業研究会や研修で新たな学習目標やその方法を検討することができた。</li> </ul>

分野	評価項目	評価の観点	評価				中間評価
			A	B	C	D	
教育課程	地域と連携した教育課程づくり	地域の素材・人材の参画を図った活動ができたか。		○			<ul style="list-style-type: none"> <li>産川に関わる活動を進めている。可能な限り地域の人々との交流も行いたい。</li> <li>コロナウイルスの感染状況もあり、なかなか地域の方々と触れ合う機会を生み出すことができなかった(畑づくりの中で近隣の畑の方々とは触れ合う程度しかできませんでした)。2学期以降、生活科等を中心に保護者や地域の方々との連携する機会を設けたい。</li> <li>地域の自慢の場所を出し合ったり、地域巡りなどを計画して歩いたが、人との交流が難しい時期なので、家庭で聞いてくるが多かった。</li> <li>Chromebookを上手に活用できてはいないが、他の先生方に教わりながら、様々な場面で使おうと努力できた。</li> <li>Chromebookを積極的に活用したことで、児童が操作を自分のものとする姿につながられた。</li> <li>特別支援学級でも教科学習や自立活動でchromebookを利用していきたい。</li> <li>自分自身の研修・教材研究がまだ追い付いていない。</li> <li>コロナ禍における地域との連携・交流は非常に難しい。</li> <li>音楽におけるChromebookの活用方法の研修をしていきたい。</li> <li>クロームブックの使い方を習得する。</li> <li>chromebookを使った授業に、恐れずに取り組んだ。スムーズな授業には、まだまだなので、研修を積んでいきたい。</li> </ul>
	chromebookやICT機器の活用	chromebookやICT機器を活用した授業づくりに取り組むことができたか。		○			
教育活動	最後まで話を聞く	発表者以外は静かに話を聞くよう、働きかけたか。		○			<ul style="list-style-type: none"> <li>子どもたちが意見を出し合うことに難しさを感じていて、時間の確保が足りなかった。「どんなことを言っても大丈夫」という安心感を、子どもたちに持たせられていないことが原因。子どもたちの考えを温かく受け入れる意識・態度を心がける。</li> <li>伝え合いを大切にコロナ禍でもできる対話的な授業を模索したい。</li> <li>1時間、また単元を通して追究の見通しが立てられるように学習問題を構築していきたい。</li> <li>自分の考えをもち、伝え合う学習の形式やリズムが定着してきている。今後は、追究後の振り返りを大事にし、子どもたちと共に狙いの達成状況を確認したり、よりよい追究の在り方を考えたりしていくようにしたい。</li> <li>教師の一方的な指示伝達が多くなり、児童たちどうしお互いに考えを聴き合う機会が減っているのではないかと懸念している。</li> <li>発表や表現の時間がじゅうぶんに確保できない分、考えや意見を書きとどめる活動は増えている。</li> <li>コロナ禍で表現活動もずいぶん制限されてしまっているのが残念である。</li> <li>授業ごとにその時間にやる活動内容をしっかり板書し、学習課題を提示することにより、児童は明確に見通しをもつことができる。</li> <li>学び合うことの基本を、積み重ねていきたい。</li> <li>教室で歌を歌おうと思うと、できなくなり残念だった。</li> <li>予想する場面では様々な意見を出し合い、友達との考えの違いを聞き合うことを楽しむことができた。しかし、学習帳の記述やテスト等の結果を見ると、やっている事を正しく理解していない子や、結果をどのように判定するかわからない子もいて、どの子にとってもねらいが十分とはいえない。今後は一人一人が目的を持って実験観察に取り組めるよう支援していきたい。</li> </ul>
	自分の考えをもち、書く	わかったこと・気がついたこと・思ったことを書く時間を確保していたか。		○			
	進んで伝え合う(発表・表現)	子どもたちが意見を出し合う時間を確保していたか。		○			
	かんがえよう	一人ひとりが追究する	一人ひとりが見通しを持って追究ができるように、ねらいを明確にした授業を心がけたか。		○		

つなげよう	心をこめた明るく元気なあいさつ	日常的な声かけや児童会活動により、あいさつのよさを自覚させながら、積極的にあいさつをしようとするよう働きかけたか。	○		<ul style="list-style-type: none"> <li>こちらから挨拶をすると、返してくるといった場合がほとんどなので、自ら挨拶できるようにしていきたい。</li> <li>「あいさつ」の気持ちよさ、大切さを毎日のように話してきた。</li> <li>あいさつももちろんだが、6年生の朝清掃の姿がすばらしい。</li> <li>自分のバケツを持って黙々と掃除する子もいて、しっかりと自分と向き合っているなあと感じる。私もしっかりと授業等の準備をしなければ、と、頭が下がる思いである。</li> <li>コロナ感染レベルが上がり歌う機会があまりとれなく残念だった。</li> </ul>
	ひびく歌声	全校音楽、学年音楽、音楽会で歌う時間を設け、子どもたちが共に声を合わせて歌うよさや楽しさを感じるようにしたか。		○	<ul style="list-style-type: none"> <li>コロナ禍での歌唱活動はレベルにより制限があり、計画通りにいかないことが多いが、コロナ警戒レベルが下がってクラス単位の合唱や、合唱班活動ができる時は、歌うことの楽しさを感じながら歌うことができた。</li> <li>クラスの児童は歌唱活動を好む児童が多いが、コロナウイルス感染拡大予防のため、なかなかその機会がとれなかった。</li> <li>「そろそろ歌を歌いたいね。」と話すとき、子どもたちからも「歌いたいよ」との声が多く聞かれた。1学期末に歌い出したとき、歌う喜びを感じ合うことができた。2学期、歌っていきたい。</li> <li>道徳だけでなく日々の生活の中で思いやりについて振り返る機会を設けた。</li> <li>コロナ禍でじゅうぶんな活動はできなかったが、運動会が開催でき、共同での喜びや達成感は全校で味わうことができた。</li> </ul>
	相手の気持ちを考えた思いやりのある行動	自分や友達のよさを大切にするよう、日常の様々な事象をもとに、子どもたちに考え行動するよう働きかけたか。	○		<ul style="list-style-type: none"> <li>コロナや日中の気温で、外遊びが制限されることもあったが、外遊びをしている児童は大勢いるように感じる。</li> <li>休み時間には、子どもたちと外で遊ぶことを心がけた。子どもたちの様子も分かり、子どもたちの安心感にもつながるようだった。</li> <li>夏場の酷暑もあり、外で遊ぶ児童画減ってきていたので、休み時間により積極的に体を動かして遊ぶことを自分自身が心がけ、一緒に外に出たい。</li> <li>給食を残さず食べる指導も必要だが、お昼休みまで延長して食べている児童については、本人や保護者と十分な共通理解をしておきたい。・残さずに完食できる日が増えてきている。残食を可視化した指導をさらに充実させたい。</li> <li>夏場の酷暑もあり、外で遊ぶ児童画減ってきていたので、休み時間により積極的に体を動かして遊ぶことを自分自身が心がけ、一緒に外に出たい。</li> <li>時間正確に始まり、終わるように心がけているが、時折、授業が延びてしまうことがあるので気を付けたい。</li> <li>原則、45分間の学習習慣を大切にしたい。</li> <li>時間をさらに意識していけるように適宜声をかけていきたい。</li> <li>昨年度は運動会を行うことができなかったため、たくさんの方に見ていただくことを楽しみにしながら練習に取り組んだり、運動会当日にたくさんの応援や拍手をもらったり、他学年の児童の一生懸命な姿に刺激を受けたりと、様々な満足感を得られる機会になった。</li> <li>運動会では、いい演技をしたいという子どもたちの思いが高まり、達成感につながることができた。友だちの苦手な部分を助けようという思いがあり、自然な動きにあらわれていた。</li> <li>国語や算数を中心に常時活動（ドリル的な活動）に取り組み、学習の補填や定着を進めてきている。</li> <li>コロナ禍で様々な活動が制限されている中だからこそ、今は基礎学力の定着にはじゅうぶんな時間をかけていくようにしたい。</li> </ul>
きたえよう	外で元気に体を動かす	外へ出て元気に体を動かすよう、遊び時間や運動時間を確保しているか。	○		
	給食をしっかりと食べる	自校給食のよさを生かし、子どもたちが感謝の気持ちを持ってしっかりと味わって食べるよう工夫したか。	○		
	規則正しい生活	教師も子どもも時間を守るようにしたか。	○		
	共に鍛える	全校体育、運動会を通して、なかまとの共同の喜びや達成感を得させることができたか。（「自己評価カード」で振り返りを行う。）	○		
	基礎学力の定着	スモールステップ学習やドリル学習の継続など、基礎事項の定着を行っていたか。	○		

生徒指導	安心・安全な学校生活	学校のきまりやマナーを守って生活するように働きかけたか。	○		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ろうか歩行に課題はあるが、委員会活動と連携させながら充実したものにした。</li> <li>・廊下歩行については、引き続き啓発していきたい。</li> <li>・休み時間、廊下に立ち、走らないように指導した。</li> <li>・廊下歩行の意識が高まらない。</li> </ul>
	心を込めた掃除	「もくもくタイム」を通して、心を込めた掃除を行い、学校や教室の環境整備ができたか。	○		<ul style="list-style-type: none"> <li>・多くの児童は掃除に熱心に取り組んでいるが、配慮の必要な児童を中心に組み組めていない児童もいる。</li> <li>・黙々と取り組む高学年の姿から低学年もどんと集中した姿を見せている。</li> <li>・清掃の始まりの黙想をクラス全員でにすること、無言清掃への取組を毎日確認することで落ち着いて清掃に取り組むことができている。各掃除場所の清掃の仕方をより丁寧に確認し、やるべきことが明確な状態で清掃に取り組めるようにしたい。</li> <li>・学年やクラスによって指導に差があるように感じる。</li> <li>・2学期は、自問清掃について意識付けていきたい。</li> <li>・自分から、見つけて清掃する姿を目指したい。</li> </ul>
保護者との連携	家庭学習の充実	家庭学習の手引きをもとに、家庭学習の習慣化や学習内容の定着・意欲の向上を図る働きかけができたか。	手引きを見直し中		<ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナ禍であっても ICT 機器など利用しながら外部との連携を密にしたい。</li> <li>・家庭学習を精選し、一つ一つの課題に丁寧に取り組む意識をより高めていくことができるようにしたい。</li> <li>・長野大学の学生ボランティアを希望していたが、今年度もコロナの影響で断念した。状況が収まれば、積極的に連携していきたい。</li> <li>・職員会で今以上に児童理解の時間をとれるようにしたい。</li> <li>・PTA 役員の皆さんには大変お世話になっている。コロナで例年通りの活動ができず、役を引き受けてくださったのに申し訳ないという思いもある。しかし、夫婦共働きで子育てをされている保護者が多くなっている昨今、さらに PTA 活動をお願いしなければならないというのは心苦しい限りである。保護者の負担軽減を図るため、PTA 活動を見直すよいきっかけとなればと思う。</li> <li>・コロナ禍においても、やきいもころりんの読み聞かせをしていただき、楽しい時間になった。ありがたい。</li> <li>・非違行為防止については日常生活の中で意識を高くもつように心がけているが、研修の数が多く、正直、前向きに取り組むことが厳しく感じる時もある。研修の仕方、開催頻度を検討したい。</li> <li>・非違行為防止研修について、「教職についてのやりがい、教師冥利に尽きる」等のエピソードを交流した。教師としてのやりがいや教職に就いた時の思いなどを振り返ることができて良かった。今後も、自校から非違行為を生まないために同僚性を発揮できるように努めたい。</li> </ul>
	PTA やボランティアとの連携	学校は PTA やボランティアとの連携を行っているか。	○		
学校運営	児童理解・非違行為防止研修	児童理解・非違行為防止等の研修を行い、自己研鑽に努めたか。	○		